



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月9日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東
 コード番号 2907 URL https://www.ahjikan.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経営管理本部長 兼 (氏名) 澄田 千稔 TEL 082-277-7010
 経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2021年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	21,667	7.1	31	—	127	—	65	—
2021年3月期第2四半期	20,238	△7.8	△20	—	△5	—	△25	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 174百万円 (—%) 2021年3月期第2四半期 0百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	8.57	—
2021年3月期第2四半期	△3.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	24,472	13,254	54.2	1,741.56
2021年3月期	23,745	13,228	55.7	1,738.04

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 13,254百万円 2021年3月期 13,228百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2022年3月期	—	0.00			
2022年3月期 (予想)			—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	5.7	300	△52.5	400	△52.2	300	△50.0	39.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有
新規 1社 （社名）AHJIKAN FOODS, INC.、除外 1社 （社名）－

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期2Q	7,700,000株	2021年3月期	7,700,000株
2022年3月期2Q	89,053株	2021年3月期	89,053株
2022年3月期2Q	7,610,947株	2021年3月期2Q	7,610,947株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の停滞が継続した結果、前連結会計年度において急速に悪化した個人消費や企業収益は依然として回復しておらず、厳しい状況で推移いたしました。他方、国外におきましては、新型コロナウイルスのワクチン接種は進展しているものの、新たな変異株の発生による感染再拡大が懸念されていることに加え、米国の金利政策により金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費者の購買行動が大きく変化していることに加え、長引く景気後退によって個人消費は足踏み状態となっており、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、『需要創造型食品メーカーへの挑戦』および『利益構造改革と経営品質の向上』をテーマとした第12次中期経営計画の初年度をスタートさせ、第一に「利益構造改善への取り組み」、第二に「業務用食品事業の売上拡大」、第三に「ヘルスフード事業・海外事業の拡大および新規事業構想の立案」、第四に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、21,667百万円（前年同四半期比7.1%増加）となり、前年同四半期実績を上回りました。一方、利益面につきましては、当社主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの影響から大幅に上昇いたしました。売上高の拡大効果に加え、徹底的な諸経費抑制に努めた結果、営業利益は31百万円（前年同四半期は営業損失20百万円）となりました。経常利益は、持分法による投資利益や為替差益などにより127百万円（前年同四半期は経常損失5百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は65百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。

詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

①業務用食品等

販売面におきましては、新型コロナウイルス感染症による影響が継続する厳しい経営環境の中、スーパーマーケットを中心とした中食業態や、回転ずしチェーンを中心とした外食業態への可能な限りの提案・販売促進活動を展開してまいりました。前年同四半期に大幅に減少していた外食・仕出し・給食業態の需要も回復基調にあり、国内の売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。また、輸出・海外子会社の売上高につきましても、ロックダウンの影響が軽減されたことに伴い、大きく回復いたしました。

生産面におきましては、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率の改善などの原価低減活動を行ったものの、当社の主要原材料である鶏卵の仕入価格が鳥インフルエンザの発生によって大きく上昇した結果、製造原価率は前年同四半期に比べ大幅に上昇いたしました。

一方、売上高の増加に伴い変動費が増加したものの、経費執行の抑制などにより、販売費は前年同四半期に比べ大幅に減少いたしました。

これらの結果、外部顧客への売上高は19,490百万円（前年同四半期比9.4%増加）となりましたが、セグメント利益（営業利益）は369百万円（前年同四半期比30.7%減少）にとどまりました。

なお、北米での販路拡大に向け、2021年7月6日付でアメリカ合衆国ロサンゼルスに販売拠点となる連結子会社 AHJIKAN FOODS, INC. を設立しております。

②ヘルスフード

通信販売は、東京オリンピック・パラリンピック期間中のテレビCM抑制により、新規顧客の獲得が減少したことや、収益認識に関する会計基準の適用もあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。一方、ドラッグストアなどでの市販品につきましては、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行った結果、機能的表示食品のごぼう茶の売れ行きは好調に推移いたしました。しかしながら、健康茶カテゴリにおいて競合品が増加したことや、ごぼう茶ミルクやごぼうスティックなど健康茶以外のカテゴリにおいて新製品導入効果が薄れたこともあり、売上高は前年同四半期を下回る結果となりました。

販売費につきましては、Web会議・Web商談の積極的な活用による出張旅費の削減や、広告宣伝費をはじめとした諸経費の抑制に努めてまいりました。

これらの結果、外部顧客への売上高は1,906百万円（前年同四半期比10.6%減少）にとどまりましたが、セグメント利益（営業利益）は398百万円（前年同四半期比26.3%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ726百万円増加し24,472百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ729百万円増加し11,484百万円となりました。主な増加要因は、原材料及び貯蔵品の増加365百万円、受取手形及び売掛金の増加294百万円、商品及び製品の増加72百万円などです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2百万円減少し12,987百万円となりました。これは、無形固定資産においてソフトウェアが増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が減少したことや、投資その他の資産においてその他に含まれる保険積立金が減少したためです。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ699百万円増加し11,217百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ989百万円増加し9,934百万円となりました。主な増減要因は、短期借入金の増加752百万円、支払手形及び買掛金の増加565百万円、その他に含まれる未払金の減少177百万円、未払法人税等の減少111百万円、その他に含まれる設備等支払手形の減少85百万円などです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ290百万円減少し1,282百万円となりました。主な増減要因は、リース債務の増加74百万円、約定返済による長期借入金の減少328百万円、長期未払金の減少33百万円などです。

なお、当第2四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ424百万円増加し5,403百万円となっております。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ26百万円増加し13,254百万円となりました。主な増減要因は、為替換算調整勘定の増加116百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加65百万円、剰余金の配当による減少114百万円などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.5ポイント減少し54.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の四半期末残高は、前連結会計年度末に比べ61百万円減少し1,701百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は28百万円（前年同四半期は618百万円の獲得）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益132百万円や、減価償却費518百万円などの資金獲得要因もありましたが、法人税等の支払額177百万円や、売上債権・棚卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での使用158百万円、未払金の減少額110百万円などの資金流出要因が上回ったためです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は302百万円（前年同四半期比182.2%増加）となりました。これは、販売管理システムの再構築、生産設備の増強投資・メンテナンス投資などが主な内容となっております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきまして不透明な状態が続いていることから、当第2四半期連結累計期間におきましては投資を抑制しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、得られた資金は239百万円（前年同四半期は403百万円の使用）となりました。これは、短期・長期借入金の借入による収入424百万円（純額）、配当金の支払額112百万円、リース債務返済による支出57百万円などが主な内容となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間までの業績は、売上高につきましては、業務用食品等においてスーパーマーケットを中心とした国内販売や、海外販売が大きく伸張したことで、当初予想を上回る見込みとなりました。一方、利益面におきましては、鳥インフルエンザによる鶏卵価格高騰の影響を受けておりますが、一部売価への反映を含め、自社製造製品の売上高が国内外ともに増加したことや、加工費の低減、広告宣伝費や旅費交通費などの販売管理費抑制に努めた結果、営業利益は当初予想を上回る見込みとなりました。

また、想定以上に円安が進行したことで、為替予約が時価評価益に転じたことや、決済差益が拡大したことにより、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも当初予想を上回る見込みとなりました。

なお、通期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響による需要動向に加え、冬場の原材料価格、為替・株価、原油価格など、先行き不透明で流動的な要素も多くありますが、当第2四半期連結累計期間までの状況を勘案し、当初予想を修正しております。

詳細につきましては、2021年11月1日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,843,258	1,781,850
受取手形及び売掛金	5,031,986	5,326,112
商品及び製品	2,296,898	2,369,559
仕掛品	34,961	52,119
原材料及び貯蔵品	1,106,495	1,471,931
その他	457,048	496,365
貸倒引当金	△15,214	△13,198
流動資産合計	10,755,435	11,484,740
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,921,039	3,866,924
機械装置及び運搬具(純額)	2,194,321	2,031,783
土地	3,804,917	3,806,338
リース資産(純額)	221,193	316,442
その他(純額)	502,413	482,444
有形固定資産合計	10,643,885	10,503,933
無形固定資産		
ソフトウェア	358,104	524,426
リース資産	60,809	57,356
のれん	49,364	41,136
その他	2,784	3,009
無形固定資産合計	471,063	625,929
投資その他の資産		
投資有価証券	687,613	654,577
長期前払費用	718	1,177
繰延税金資産	82,229	96,860
退職給付に係る資産	282,689	310,775
その他	899,278	870,178
貸倒引当金	△77,198	△76,012
投資その他の資産合計	1,875,333	1,857,557
固定資産合計	12,990,281	12,987,420
資産合計	23,745,717	24,472,160

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,755,013	3,320,320
短期借入金	3,838,253	4,591,168
リース債務	97,041	123,725
未払法人税等	221,751	110,565
賞与引当金	352,000	379,700
役員賞与引当金	42,496	26,692
ポイント引当金	62,550	34,713
契約負債	—	132,546
その他	1,576,145	1,215,461
流動負債合計	8,945,251	9,934,894
固定負債		
長期借入金	1,141,052	812,768
長期末払金	130,254	96,531
リース債務	215,669	290,522
資産除去債務	53,861	53,958
退職給付に係る負債	14,326	15,526
繰延税金負債	15,680	11,531
その他	1,500	1,500
固定負債合計	1,572,343	1,282,336
負債合計	10,517,594	11,217,230
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,102,250	1,102,250
資本剰余金	1,098,990	1,098,990
利益剰余金	10,793,105	10,710,201
自己株式	△64,426	△64,426
株主資本合計	12,929,919	12,847,015
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145,252	139,739
繰延ヘッジ損益	12,769	11,149
為替換算調整勘定	140,181	257,026
その他の包括利益累計額合計	298,203	407,914
純資産合計	13,228,122	13,254,930
負債純資産合計	23,745,717	24,472,160

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	20,238,605	21,667,191
売上原価	14,902,396	16,470,958
売上総利益	5,336,209	5,196,232
販売費及び一般管理費	5,356,980	5,164,901
営業利益又は営業損失(△)	△20,771	31,331
営業外収益		
受取利息	3,472	704
受取配当金	11,581	10,131
持分法による投資利益	24,288	32,404
長期為替予約評価益	—	2,866
保険返戻金	—	26,580
為替差益	17,972	29,522
その他	29,820	16,053
営業外収益合計	87,135	118,264
営業外費用		
支払利息	17,536	14,904
長期為替予約評価損	41,995	—
その他	12,150	7,434
営業外費用合計	71,682	22,339
経常利益又は経常損失(△)	△5,319	127,256
特別利益		
固定資産売却益	11,187	6,119
投資有価証券売却益	4,441	14,429
特別利益合計	15,628	20,549
特別損失		
固定資産除却損	1,150	354
投資有価証券売却損	—	24
投資有価証券評価損	—	15,038
特別損失合計	1,150	15,417
税金等調整前四半期純利益	9,158	132,388
法人税、住民税及び事業税	39,902	67,273
法人税等調整額	△5,093	△102
法人税等合計	34,809	67,170
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△25,651	65,218
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△25,651	65,218

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△25,651	65,218
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	71,965	△5,512
繰延ヘッジ損益	△8,328	△1,620
為替換算調整勘定	△28,670	89,580
持分法適用会社に対する持分相当額	△8,436	27,263
その他の包括利益合計	26,530	109,711
四半期包括利益	879	174,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	879	174,929
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,158	132,388
減価償却費	547,841	518,622
のれん償却額	8,227	8,227
賞与引当金の増減額 (△は減少)	75,200	27,700
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△18,194	△15,803
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	—	5,541
契約負債の増減額 (△は減少)	—	50,336
長期未払金の増減額 (△は減少)	△50,000	△33,723
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△24,861	△26,885
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4,096	△3,201
持分法による投資損益 (△は益)	△24,288	△32,404
受取利息及び受取配当金	△15,054	△10,836
支払利息	17,536	14,904
投資有価証券売却損益 (△は益)	△4,441	△14,405
有形固定資産売却損益 (△は益)	△11,187	△6,119
有形固定資産除却損	1,150	354
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	15,038
売上債権の増減額 (△は増加)	△54,124	△288,778
棚卸資産の増減額 (△は増加)	215,415	△428,826
仕入債務の増減額 (△は減少)	95,721	559,180
未収入金の増減額 (△は増加)	39,024	68,761
未払金の増減額 (△は減少)	△12,205	△110,474
未払消費税等の増減額 (△は減少)	9,496	△66,119
その他	△101,218	△213,941
小計	699,100	149,536
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△81,028	△177,773
営業活動によるキャッシュ・フロー	618,072	△28,237
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△70,301	△300
定期預金の払戻による収入	133,274	—
投資有価証券の取得による支出	△4,730	△200
投資有価証券の売却による収入	7,485	23,997
有形固定資産の売却による収入	14,860	6,120
有形固定資産の取得による支出	△201,525	△247,362
無形固定資産の取得による支出	△50,259	△272,965
利息及び配当金の受取額	62,604	73,123
その他	1,340	114,910
投資活動によるキャッシュ・フロー	△107,252	△302,677
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△100,000	800,000
長期借入れによる収入	500,000	—
長期借入金の返済による支出	△635,206	△375,369
利息の支払額	△17,283	△15,357
リース債務の返済による支出	△37,524	△57,594
配当金の支払額	△113,210	△112,516
財務活動によるキャッシュ・フロー	△403,224	239,162
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,456	30,044
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	97,138	△61,708
現金及び現金同等物の期首残高	1,765,818	1,763,008
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,862,956	1,701,300

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結会計期間において、新規設立によりAHJIKAN FOODS, INC. を連結の範囲に含めております。

なお、AHJIKAN FOODS, INC. は当社の特定子会社に該当しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、ヘルスフードにおいて販売費及び一般管理費として計上していたポイント引当金繰入額の一部について、売上高から控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は50,336千円減少し、販売費及び一般管理費は3,422千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ46,913千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は33,957千円減少しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	17,810,516	2,133,901	19,944,418	294,187	20,238,605	—	20,238,605
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	236,929	236,929	△236,929	—
計	17,810,516	2,133,901	19,944,418	531,117	20,475,535	△236,929	20,238,605
セグメント利益 又は損失(△)	533,416	315,643	849,059	△20,343	828,716	△849,488	△20,771

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△849,488千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△850,598千円及び棚卸資産の調整額1,110千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	19,490,735	1,906,966	21,397,702	269,488	21,667,191	—	21,667,191
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	257,651	257,651	△257,651	—
計	19,490,735	1,906,966	21,397,702	527,139	21,924,842	△257,651	21,667,191
セグメント利益 又は損失 (△)	369,727	398,501	768,229	△8,759	759,469	△728,138	31,331

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△728,138千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△743,365千円及び棚卸資産の調整額15,226千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「ヘルスフード」の売上高は50,336千円減少し、セグメント利益は46,913千円減少しております。